

最新統計

人口の推移

(単位:人)

市町名	平成17年 10月1日	平成21年 8月末	平成21年 9月末	平成21年 10月末
気仙沼市	78,011	75,457	75,406	75,369
南三陸町	18,645	17,921	17,907	17,897
合計	96,656	93,378	93,313	93,266

世帯数の推移

(単位:世帯数)

市町名	平成17年 10月1日	平成21年 8月末	平成21年 9月末	平成21年 10月末
気仙沼市	25,510	26,636	26,635	26,627
南三陸町	5,335	5,369	5,364	5,360
合計	30,845	32,005	31,999	31,987

**平成21年9月1日に気仙沼市と本吉町は、
合併しました。**

気仙沼魚市場水揚げ実績 (数量:トン,金額:千円)

漁業別	平成21年10月		前年同期比	
	数量	金額	数量	金額
鮪延縄	959	412,354	202	124,232
鯉一本釣	2,562	920,905	3,289	796,237
秋刀魚受網	12,451	622,681	2,091	205,786
近海大目流網	645	147,639	23	48,174
旋網	791	51,236	56	29,572
定置網	532	116,518	79	14,138
船凍鮪延縄	-	-	25	16,251
冷凍いか釣	-	-	-	-
曳網・抄網	-	-	-	-
搬入	205	133,986	18	3,034
その他	268	66,454	110	8,688
合計	18,413	2,471,773	4,893	1,141,316

10月水揚げ実績は、カツオの一本釣りの不振等により、1,8413トン
約24億7,200万円、1月からの累計では15年連続県内一はほぼ確実。

発達障害のある子どもたちとその保護者 への理解と支援に関する研修会

(東部児童相談所気仙沼支所家庭支援班)

平成21年9月16日(水)気仙沼保健福祉事務所を会場に、管内保育所、学校、幼稚園、福祉施設などの関係者約40名の参加をいただき、研修会を開催しました。

発達障害に対する正しい知識を学び、現場での対応スキルの向上を図るとともに、家庭や地域の中で安心した生活を送ることができよう支援していくことの大切さを理解することを目的に開催したものです。



研修会の様子

当日は、当所の児童心理司からの、発達障害に関する基礎的な講義と、みやぎ発達障害サ

ポートネットの伊藤あづさ事務局長から「保護者が求める保育所・幼稚園等での支援について」のお話をいただきました。伊藤事務局長は、自身のお子さんも発達障害を抱えており、実体験を通して得た貴重なお話を聴くことができました。

周囲の無理解によって孤立しがちな子どもや家族に対する支援を考える上で、実践的なヒントや答えなど、たくさんのことを学ぶことができた有意義な研修会になりました

「気仙沼地域廃棄物不法投棄防止対策 会議」の開催

(気仙沼保健福祉事務所環境廃棄物班)

県では、廃棄物の不法投棄等不適正処理対策として、テレビ・ラジオ・広報誌などによる不法投棄防止の普及・啓発のほか、産廃Gメンのパトロール及び監視カメラ設置による不法投棄・不適正処理の早期発見・早期対応を実施しています。

これを受けて、気仙沼地域の実情に添った不法投

棄防止対策に関し、関係機関が相互に緊密な連絡を図ることを目的として「気仙沼地域廃棄物不法投棄防止対策会議」を設置し、去る10月20日に今年度の連絡会議を開催しました。

メンバーは国、県、市町、関係業界及び廃棄物の不法投棄の情報提供に関する協定締結団体で構成しています。



連絡会議の様子

当日は各出席機関から不法投棄対策の取組及び活動状況の報告があり、その後、不法投棄等不適正処理事案に関する情報交換を行いました。気仙沼市からは緊急雇用対策事業の一環として、10月から2名の不法投棄パトロール職員を雇用し、これまで6件・300kgの廃棄物を回収したとの情報提供がありました。

不法投棄は年々少なくなっているものの依然として一部で廃棄物の不法投棄が見られることから、今後も関係機関と連携しながら対応していくことを確認しています。

浜と水産試験場の情報交換会の開催

(水産技術総合センター気仙沼水産試験場)

水産技術総合センター気仙沼水産試験場(気仙沼市波路上)の研究内容と課題に対する取り組みや成果について、水産関係の方々に紹介するとともに、生産者との意見交換を行うため、8月25日に当試験場の二階会議室において情報交換会を開催しました。

気仙沼地方振興事務所佐々木副所長による水産試験研究のヒヤリ・ハット事例の講演に引き続き、会場から、今年の海況の特徴と今後の海況予想、アワビ増殖のポイントとウニの移植による身入り向上、

漁業者によるワカメタンク採苗実践例の紹介、卵持ちガキの割合を下げる方法及び病害生物の侵入による水産有用生物への影響、の4課題について情

報提供を行いました。

この4課題の内容は、地元新聞の連載記事を通して当地域に広く公開されました。



情報交換会の様子

また、水産技術総合センター水産加工開発部(石巻市魚町)から、業務内容と水産加工品開発を目指した新たな水産加工機器の紹介も行いました。

当日は生産者等30数名の参加を得て、活発な質疑応答が交わされました。

なお、当試験場では生産現場に出向いての研修会も開催しており、今後ご要望に添って積極的に生産者との意見交換を随時行っていきます。

少年の主張気仙沼・本吉地区大会の開催

(気仙沼地方振興事務所総務部総務・管理班))

平成21年9月9日(水)に、気仙沼市立津谷中学校を会場として、気仙沼・本吉地区が開催されました。

新型インフルエンザの流行が懸念されるなかでの開催でしたが、会場校や参加者への影響はなく、当



最優秀賞を受賞した志田さんの発表の様子

日は、管内中学校16校からの代表の皆さんが、生活の中で体験した身近な題材をもとに、中学生が日頃考えていることや感じていること、体験したことなどを精一杯発表し、会場校の生徒をはじめとする聴衆の方々が熱心に聞き入り、大きな感動を受けている姿がみられました。

審査の結果、気仙沼市立気仙沼中学校3年の志田晶さんが最優秀賞を受賞し、県大会に出場しました。志田さんは、県大会でも最優秀賞を受賞し、その後

行われた北海道・東北ブロック選考会で全国大会への出場を推薦され、11月8日(日)に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた大会において、文部科学大臣賞を受賞しました。

「八瀬・森の学校」そば粉を活かしたメニュー作りに挑戦

(気仙沼地方振興事務所農林振興部農業振興班)

気仙沼市八瀬地区にある月立小学校の旧校舎は、県内でも数少なくなった木造校舎です。この校舎を舞台に、地域の方々が結成した「八瀬・森の学校」では、地域で栽培しているそばを使って、そばイベント「学校そば」を開催してきました。この取り組みの今後の展開を考えるために、グリーン・ツーリズムアドバイザー派遣事業を活用し、都市と農山村の交流に詳しい足立千佳子先生を迎え、6月・7月・11月の3回にわたり学習会を行いました。最終回となる今回は「そば粉を活かしたメニュー作り」に取り組みました。

まず、そば粉の「そばきり」以外の食べ方として「そばがき」を作りました。淡泊な味なので、きな粉を付けて試食しました。参加者のアイデアで磯辺巻きにして揚げると、香ばしくこくができました。次に、トマト等身近な野菜を使ったフルーツポンチを試作しました。参加者から郷土料理として「めかぶもち」がふるまわれました。

試食しながらの参加者と先生の会話の中で、そばがきについては、1回分のそば粉にレシピを付けて販売してみたらどうか、簡単な料理なので少人数のグループを受け入れる際に体験してもらったらどうか等のアイデアが出されました。

今回で3回にわたる研修会は終了です。「八瀬・森の学校」では、9月に飲食店営業の許可を取得しまし

た。今まで年3回程度実施していた「そば学校」は、今後は月1回の開催を目標にしたいとのこと。



メニュー作りの様子

松くい虫被害により消失した気仙沼「大前見島」の松林復元の取り組み

(気仙沼地方振興事務所農林振興部林業振興班)

去る7月14日、気仙沼市大島地区振興協議会の皆さんが大前見島で下刈作業を行いました。

当振興協議会は平成19年～21年までの3年間、松くい虫被害地である大前見島を元の松林に復元す



開会式の様子

るために、松の苗木(松くい虫に抵抗性を示すもの)を千二百五十本植栽しました。

下刈作業は、植栽した松の苗木が「雑草に負けないで育つように」との思いを込めて毎年行なわれるもので、今年度は50人の方々の参加がありました。

作業前に大島地区振興協議会の水上会長から「何年か後、子どもたちに“大前見島に松の緑が復活したのはおじいさんたちのおかげ”と言われるように頑張ってください。」とお話がありました。

作業等の甲斐もあり、松の苗木は枯損もなく、順調に育ち、大きなものは高さ2メートルほどに育っています。



下刈りの様子

この度、当協議会のこれまでの松を育てる活動が評価され、全国森林病虫害獣害防除協議会主催の平成21

年度森林病虫害等防除活動優良事例コンクールにて奨励賞を受賞されました。

この取り組みが地域に根付き少しずつ広がっていくことを期待しています。

木材の地産地消をPR！ 「地域材木造住宅見学会」を開催

(気仙沼地方振興事務所農林振興部林業振興班)

8月19日、当事務所と宮城北部流域森林・林業活性化センター気仙沼支部共催で木造住宅見学会を開催し、木造住宅に関心のある一般県民や関係機関、木材協会など関連団体から16名の参加をいただき、気仙沼市及び南三陸町の新築中(リフォームを含む)の住宅三軒を訪問し、施主や建築業者から説明を聞きました。



見学会の様子

このうち気仙沼市松崎の熊谷さん宅は、建築主自ら、三年間建築について勉強したとあって、工務店と一緒に山に

入って材料を選び、土台はクリ材、柱はスギ材、床板にはアカマツ材、また断熱材としてスギ皮圧縮材(スギ樹皮ボード)を使用するなど地域材にかける思いが感じられる住宅で、参加者一様に感心していました。

工務店からは「60年以上のスギがこれから使える時期にきています。今回のような建物や地元の木を使ってもらいたいものです。」との話もありました。

見学会後の座談会では、「建築中の家を見ることは個人ではなかなかできないので良い機会、専門家と一緒に見学会なので専門的なことも聞くことができた」(一般参加者)、「自宅を新築することになりその参考になると思い参加した」(同)、「工務店のこだわりを聞くことができるのはこのような機会」(建設職組合)、「地域材を使った木造住宅普及は地球温暖化にも結びつくエコな取組み」(木材協会)、「製材工場を担当しているが、こうした地域材を使った木造住宅を見学する機会は少ない」(製材工場)といった意見が出されました。

「菖蒲沢ため池学校」が開催される

(南三陸支所農業農村整備班)

10月25日に「菖蒲沢ため池学校」が開催されました。

「菖蒲沢ため池」は気仙沼・本吉地域最大の農業用ため池ですが、そのため池の水を利用している階上大谷土地改良区とそのため池周辺的环境資源を守る活動

をしている上郷地区ふるさと・水と土保全隊、菖蒲沢地区ふるさと・水と土保全隊の両保全隊が共同で開催しました。



熱心に説明を聞く子供達の様子

農業農村整備班では土地改良施設が有する多様な機能を良好に発揮させるため地域住民が自ら保全活動していく仕組みづくりを支援しています。

ため池学校は地域を担う子供達に「ため池や森林のもつ機能」、そして「それを守るための人々の努力」及び「それを守ることの大切さ」を感じとってもらい保全活動が引き継がれていくことを目的としています。

ため池学校の準備のため保全隊の大人達約40人が早朝から周辺の草刈り、池干し、芋煮会の準備をしました。



生き物に興味津々 手の上には“よしのぼり”

の観点から気仙沼地方振興事務所農林振興部の協力を得て森林の大切さについても説明しました。

子供達に人気のため池の生き物調査では、捕獲した生き物はほとんどが大型の鯉とブラックバスでした

講演ではため池の歴史や役割について学ぶとともに環境保全には人や資源のネットワークの維持も大事と

が、数少ないながらヨシノボリやザリガニ、沢ガニなども捕まえ子供達は興味津々でした。

大谷中学校が全国豊かな海づくり大会で表彰

(気仙沼地方振興事務所水産漁港部水産振興班)

平成21年10月31日(土)に東京都で開催された第29回全国豊かな海づくり大会(主催:豊かな海づくり大会推進委員会)における式典行事として、栽培漁業、漁場・環境保全、資源管理型漁業の3部門で功績のある団体の表彰が行われました。

本県から推薦された、気仙沼市立大谷中学校が漁場・環境保全部門において、農林水産大臣賞を受賞しました。

大谷中学校では「ハチドリ計画」と名付けた「主体的に環境に働きかける生徒を育てる」ための環境維持保全活動を推進しており、その一環としての海の環



海岸の環境整備(海岸清掃)の様子

境を守る活動が高く評価されたものです。この活動は、大きく分けて、磯焼け調査、海辺の森林保全活動、海岸の環境整備の三つの活動を行っており、活動成果の一部は、平成19年12月に開催された、「本吉町水産振興シンポジウム」において子供達の間から見た海の環境が地域住民へ報告される等、改めて地域の方々が環境保全へ取り組むきっかけを作っています。

南三陸のきれいな海が次代へ継がれていくよう、ますますの活躍が期待されます。

平成21年度小泉川さけ有効利用調査がスタート

(気仙沼地方振興事務所水産漁港部水産振興班)

平成21年11月5日、気仙沼市内の津谷川(通称小泉川)で本年度の「さけ有効利用調査」が始まりました。本調査はサケ資源を有効に活用するひとつの方法として、「さけ釣り」のさけ増殖事業への影響を調

べるため、調査員を募集し(今年度の募集は終了)、さけ釣りのふ化事業(採捕)への影響の有無、釣られたさけの卵での種苗生産が可能なことについて調べるものです。

本年度は、昨年より約100名多い590名での調査が予定され、一人当たりの釣獲尾数の上限については昨年より3尾多い8尾となるなど規模を拡大しての実



さけ釣り調査風景の様子

施となっています。また、昨年好評だった「親子大会」も11月21日に開催されました。

なお、さけや地元食材をふんだんに使った好評の「釣り弁」についても本年度も調査員に提供(参加費に含む)されています。

漁協女性部による料理講習会開催

(気仙沼地方振興事務所地方振興事務所
・水産漁港部水産振興班)

11月9日に「おらほのうめえもん発掘、利用促進事業」(県地域産業振興事業)で、宮城県漁業協同組合気仙沼地区支所大島出張所女性部の方々を講師に迎え料理講習会を開催しました。

本講習会は、「おらほのうめえもん発掘、利用促進事業」における地元食材の提供及び講師派遣を理容婦人学級が活用し、「地元食材を使った浜料理」をぜひ教えて欲しいという要望から、浜料理を知り尽くしている漁協女性部に講師を依頼したもので、食材



料理講習会の様子

費の一部及び講師派遣費を県が助成しました。

当日は、4名の女性部員が講師となり理容婦人学級から1

6名の参加者が、サケの薩摩揚げ、アカザらご飯、サケのすり身汁など、3品のメニューを作りました。

参加者からは、「すり身汁は生くささがなくおいしい」、「薩摩揚げは野菜がたくさん入り、食感がいい」等の感想が聞かれ、また、漁協女性部からも「魚食普及を通じて楽しい一時を過ごすことができた」という感想が聞かれました。

引き続き、地元で獲れたおいしいもの(おらほのうめえもん)の食べ方を広く発信していきます。

岩手県の先進事例を視察研修 ～企業立地推進部会～

(気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班)

気仙沼地方振興事務所と管内の市町で構成する気仙沼・本吉地域政策調整会議の企業立地推進部会で8月6日、岩手県での企業立地や企業支援の状況視察のため、岩手県工業技術集積支援センター(北上市)と花巻市起業化支援センターを訪れました。

岩手県工業技術集積支援センターでは、隣接する金ヶ崎町の自動車生産会社の協力を得て、自動車一台を解体した全ての部品の展示を見学しました。

花巻市起業化支援センターでは、運営する花巻市技術振興協会の佐藤事務局長から事業説明と施設



花巻市起業化支援センター視察の様子

見学を行い、地元企業・株式会社伊藤工作所の伊藤専務を交えた意見交換会を行いました。この中で

お二人からは、「異なる強みを持つ地域同士で連携すること、行政としては継続的に何年も企業の経営支援に取り組むことが重要」とのアドバイスをいただきました。

企業や企業支援者の生の声を通して企業立地政策の気づきを得ることができ、とても意義ある視察研修になりました。

「水の都の美味しいお米」 南三陸米新米試食会が開催される

(気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班)

気仙沼市のホテル観洋で10月24日、南三陸米図画コンクール表彰式・新米試食会が行われました。この日は図画コンクールに入賞した小学生とその親、一般申込者、関係機関の計100人ほどが参加し、賑わいました。招待された図画コンクール入賞者には一枚一枚賞状が手渡され、会場内には入賞作品が展示されました。試食会では「粘りがあっておいしい」、「特に今年は甘みが強い」などと好評を得ました。

南三陸米はJA南三陸管内で生産されたひとめぼれのうち、1等米を100%使用したお米。

地域の生産物は地域で消費する「地産地消」を合言葉に、平成16年から本格出荷を始め、地域に根付いてきました。本年産の南三陸米は約300トンが出荷される見込です。



南三陸米新米試食会の様子

中国セミナー in 気仙沼 「躍進する中国を狙え！」の開催

(気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班)

11月11日に気仙沼市内で中国セミナー in 気仙沼「躍進する中国を狙え！」が開催され、気仙沼市及び南三陸町の民間企業・団体及び行政機関から100名以上の方々が参加しました。

このセミナーは、急速な経済発展を遂げているアジア諸国、とりわけ世界の経済を牽引する中国経済の現状や今後の展望について理解を深めるとともに、個人旅行の解禁などにより拡大を続ける中国人観光客の誘致を促進する上での新しい視点を考えることを目的に開催したものです。

第一部講演では、三井住友カード(株)東北営業部の松原康生氏から中国の各銀行が共同で発行しているキャッシュカードによる決済サービスで、そのままデビット・カードとなる中国銀聯カードの現状と今後の事業



主催者挨拶の様子

展開について、第二部講演では、BRICS経済研究所代表の門倉貴史氏から「最近の中国経済と今後の展望について」と題して講演いただきました。

講演では、中国人観光客は都会だけでなく自然、特に山に大変興味を持っている、中国の消費マーケットが日本を追い越すのは時間の問題で、急速な経済発展に伴い、観光消費も増えており、中国人観光客の誘客に向けた取り組みが重要であるなどといった大変貴重なアドバイスやお話をいただきました。

参加者は、中国の経済成長が加速している理由やBRICS(ブラジル・ロシア・インド・中国)の台頭により塗り変わる世界経済の勢力地図について体系的に学ぶことができました。



門倉代表の講演の様子

地域リハビリテーション従事者研修会 (口腔ケア)の開催

(気仙沼保健福祉事務所成人・高齢班)

気仙沼保健福祉事務所では、介護保険施設・事業所の方々を対象に9月17日と10月1日に口腔ケアに関するシンポジウムと基礎実技の体験研修を行いました。

要介護者の口内を清潔で良好に保つことは、肺炎予防やQOLの向上に役立ちますが、口腔ケアの大切さはまだ十分に認識されているとはいえません。

シンポジウムは「知っておきたい歯科の基礎知識～地域で口腔ケアに取り組むためには～」と題して気仙



口腔ケア基礎実技体験研修の様子

沼歯科医師会の加藤副会長から講演をいただき、引き続きパネルディスカッションを行い、現在口腔ケアに携わっている歯科衛生士、介護支援専門員、看護師、介護福祉士にそれぞれの立場から現状などを発表していただきました。

基礎実技体験研修は、宮城県歯科衛生士会気仙沼支部の皆さんのご指導をいただき、グループ毎に実際に口腔内乾燥やスポンジブラシ等を使ったケアについて参加者に体験してもらいました。

なお、参加者には、12月開催予定の「取組事例・情報交換会」で今回の研修を受けて行った取組や問題点を発表してもらい、地域に定着させるための話し合いをすることとしております。

【あとがき】

牡蠣(カキ)がおいしい季節になり、カキ生産者は忙しい時期を迎えています。

カキの養殖は昭和の始め頃まで、木架やイカダからカキをつり下げる方式で行われていました。この方式では波の高い外洋では耐久性が劣ることから、適地は波の穏やかな内湾に限られていました。

昭和20年代に入って、気仙沼湾松岩地先において樽と樽をロープで連結してカキをつり下げる延縄式養殖法が開発されました。

この方式は「のれんに腕押し」のごとく波の影響を受けることが少なく、カキ養殖は波荒い外洋でも可能となり、飛躍的に発展しました。

この延縄方式は、さらにワカメ、ホヤ、ホタテ貝などの養殖にも応用され世界中に広がっています。

三陸の海に広がる養殖施設。普段何気なく見えていますが、カキ養殖の外洋進出に懸けた先人たちの情熱を想い、改めてカキの豊かな味わいに感謝したいものです。